

最優秀賞受賞にあたって

岡山県岡山市立芳明小学校

なか やす つばさ

中安 翼



この度は東書教育賞最優秀賞に選んでいただき、ありがとうございます。大変光栄に感じるとともに、非常に驚いています。

実は、最優秀賞との連絡をいただいたとき、「何かの間違いではないか」と真剣に思いました。というのも、これまでの最優秀賞受賞論文を拝読すると、数ヶ月から1年単位での実践が多く、今回の私の実践とはスケールが大きく違っていただけからです。

本実践は、期間でいうと2週間。それも週1回の2時間単元の実践です。今流行りのICTの活用も行っていません。そんな実践がなぜ最優秀賞なのか。この原稿を書いている時点でも不思議に思っています。ただ、何とか理由を見つけようと考えた結果、募集要項の審査の観点に示されている「特殊な実践ではなく、誰にでも応用できるような一般化への手がかりがあるか」という点が評価されたのではないかと解釈しています。本当に、誰にでもできるような実践だからです。

本実践は、私が現在勤務している岡山市立芳明小学校の5年生に対して行ったパラスポーツを取り入れた体育授業です。性差や技能差、国籍にかかわらず、子供たちが誰とでも運動を楽しめるような授業にしたいと思い実践しました。授業としては成果だけでなく課題も残りましたが、その課題も踏まえて本論文を読んでくださった方の今後に役立つことがあれば幸いです。

さて、少し自己紹介をさせていただくと、私は

現在教員13年目です。大学院への進学や、大学院修了後に民間企業に就職したこともあり、同級生からは数年遅れて教員になりました。

ただ、そんな私でも一点だけ自負できる点があります。それは体育授業の経験です。前任校の岡山大学教育学部附属小学校では7年間勤務した中で5年間を体育専科として過ごしました。その結果、私は教員13年間で1～6年生までの全学年、延べ48学級の体育を指導することができました。通常、学級担任として体育を指導できるのは1年間で1学級だと考えると、私は48年分の体育授業をしている計算になります。

指導力には自信がありませんが、私はこの13年間、「誰もが楽しめる体育にしたい」という思いを大切に多くの子供たちを指導してきたつもりです。今回の受賞は、その姿勢を認めていただけた気がして嬉しく思っています。

そして、今回の受賞を私以上に喜んでくれたのが元小学校教員の父でした。私が教員を目指すきっかけであり、実家に帰るたびにアドバイスをくれる父に、今回の受賞が親孝行になったのであれば、嬉しい限りです。

最後に、本実践だけでなく日々の授業づくりや学級経営などで支えてもらっている5年団の先生方や、日々の授業に前向きに取り組んでくれる5年生の子供たちに感謝の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございました。